

理事長挨拶

学校法人 加 計 学 園 理事長・総長 加 計 役



現在、本学園には1万人を超える学生生徒が学び、1千名を超える教職員が若者の学びを支え導いています。昨年6月1日付で理事長に就任してから間もなく1年を迎えますが、この教育研究の場を守り、発展させていく責任の大きさに身が引き締まると同時に、理想の学園づくりに向け、武者震いを感じています。

平成30年の「グランドデザイン（答申）」時点では、令和22年（2040）年の18歳人口は88万人と推計されていましたが、令和6年度の出生数は、それを大幅に下回り70万人を割る見込みです。高等教育を取り巻く環境は、加速度的に厳しさを増しており、本学園が、将来にわたって「選ばれる学園」であり続けるために、私は「組織の構造改革」、「教育・研究」、「キャリア・就職」、「広報」、「財務」の5本柱を重点項目として掲げました。「変化なくして成長なし」。新たな時代に対応した教育への転換、国際化から多様化への転換などに積極的に取り組んでいく所存です。

昨年10月発表された英国の高等教育専門誌タイムズ・ハイヤー・エデュケーションの世界大学ランキングに、岡山理科大学がランクインを果たしました。このことは、岡山理科大学が世界基準で質の高い教育研究を行っていることが証明されことを意味しています。この「広報」戦略における成果を生むことができたのは、教職員の協働の賜物であり、今後も教職員一丸となって、取り組んでいきたいと思っています。

このように、今年度はこの5つの重点項目ごとに具体的かつ明確な目標を設定し、「選ばれる学園づくり」に向け、組織的・機動的に教育研究事業を進めていきます。

岡山理科大学においては、通信教育部情報理工学部を開設し、これまでにない学びのスキームにより、18歳人口に依拠しない学生募集に期待をしています。

倉敷芸術科学大学及び千葉科学大学は、昨年度に日本高等教育評価機構により第3クルールの認証評価を受審し、「適合」の評価を得ることができました。この中で評価された「強み」をより強固にし、課題とされた点は修正し、新学長のリーダーシップのもとより魅力ある大学づくりを進めていきます。特に、千葉科学大学においては、抜本的な運営方法の見直しが迫られていることから、今年度はこの課題に最優先で取り組んでいきます。

専門学校、附属高等学校、附属中学校、こども園の各校についても、教育課程を見直し「選ばれる学校づくり」に向けて取り組みます。

また、法人運営については、この4月に施行される改正私立学校法に則り、本学園の運営規則となる寄附行為を新たに施行します。私立学校法の改正の趣旨である「ガバナンス改革の推進」を実質化するためにも、理事会・監事・評議員会の役割を明確にし、内部統制が機能する強固なガバナンス体制を構築していきます。